

主要事業個別シート(第2次実施計画/H27・28年度)

ver.1.01

① 基本事項	計画コード	事業名	部名	市民文化部(文化振興局)
	19143	鈴鹿関跡範囲確認調査事業	室名	まちなみ文化財室
	基本施策の大綱	05:次世代を担う人づくりと歴史文化の振興	会計	01:一般会計
	基本施策	04:歴史文化の継承	款	10:教育費
	施策の方向	03:文化財の保存・活用	項	05:社会教育費
戦略プロジェクト	-	目	05:遺跡調査費	
事業予定期間	H 20 ~ H 28 年度 主な根拠法令要綱等 文化財保護法・三重県文化財保護条例・亀山市伝統的建造物群保存地区保存条例			

② 目的・概要	対象	市民・土地所有者・来訪者・開発事業者
	目的	古代三関にあげられ、わが国の重要遺跡の一つである鈴鹿関について、保護の措置を図るため、国史跡指定への必須条件である調査報告書を刊行し、平成28年度中に古代三関で初となる国史跡指定を目指す。
概要	平成27年度に調査報告書の刊行を行い、国史跡への申請(意見具申)をするとともに、講演会(調査報告会・シンポジウム)等を開催する。 平成28年度には、古代三関における鈴鹿関について全国に情報発信するため、パンフレットの作成や講演会(調査報告会・シンポジウム)等を開催する。	

		平成27年度	平成28年度			
③ 年度別事業計画	計画額	事業費	1,900千円	2,000千円		
		国庫支出金	460千円			
	県支出金	240千円				
	地方債					
	その他		1,800千円			
	一般財源	1,200千円	200千円			
	予算額	事業費	1,850千円			
		国庫支出金	728千円			
		県支出金	170千円			
		地方債				
その他						
一般財源	952千円	0千円				
期間内総事業費(H27・H28)①		3,900千円	期間外事業費(H29以降)②	0千円	総事業費(①+②)	3,900千円

		平成27年度	平成28年度	(参考・平成29年度)				
④ 指標	① 補足	名称	講演会、説明会等の開催回数	活動	計画値	2	2	
		補足	講演会(調査報告会・シンポジウム)、現地見学会等の延べ開催数	活動	単位	回	回	
	② 補足	名称	講演会、説明会等の参加者数	活動	計画値	200	500	
		補足	講演会(調査報告会・シンポジウム)、現地見学会等の延べ参加者数	活動	単位	人	人	
③ 補足	名称	国史跡指定の状況	成果	計画値	申請	指定		
	補足		成果	単位				
④ 補足	名称				計画値			
	補足				単位			

事務事業評価シート

H27(主要事業)

①基本事項	計画コード	事業名	部名	市民文化部(文化振興局)
	19143	鈴鹿関跡範囲確認調査事業	室名	まちなみ文化財室
	基本施策の大綱	05:次世代を担う人づくりと歴史文化の振興	財	会計
	基本施策	04:歴史文化の継承	務	款
基本施策	04:歴史文化の継承	科	項	10:教育費
施策の方向	03:文化財の保存・活用	目	目	05:社会教育費
戦略プロジェクト	-			05:遺跡調査費

②目的・概要	対象	市民・土地所有者・来訪者・開発事業者
	目的	古代三関にあげられ、わが国の重要遺跡の一つである鈴鹿関について、保護の措置を図るため、国史跡指定への必須条件である調査報告書を刊行し、平成28年度中に古代三関で初となる国史跡指定を目指す。
概要	平成27年度に調査報告書の刊行を行い、国史跡への申請(意見具申)をするとともに、講演会(調査報告会・シンポジウム)等を開催する。平成28年度には、古代三関における鈴鹿関について全国に情報発信するため、パンフレットの作成や講演会(調査報告会・シンポジウム)等を開催する。	

		27年度	28年度
①	名称	講演会、説明会等の開催回数	計画値 2
	補足	講演会(調査報告会・シンポジウム)、現地見学会等の延べ開催数	実績値 8
		単位	回
②	名称	講演会、説明会等の参加者数	計画値 200
	補足	講演会(調査報告会・シンポジウム)、現地見学会等の延べ参加者数	実績値 287
		単位	人
③	名称	国史跡指定の状況	計画値 申請
	補足		実績値 0
		単位	
④	名称		計画値
	補足		実績値
		単位	

年度計画				年度実績			
<ul style="list-style-type: none"> 調査報告書(本冊・概要版)の刊行 調査報告書 A4版 200頁 500冊 概要版 A4版 16頁 1,000冊 調査報告書掲載図面整理 国史跡指定申請(意見具申) 講演会(調査報告会・シンポジウム)、展示等の開催 				<ul style="list-style-type: none"> 調査報告書(本冊)の刊行 200頁 500冊 講演会(調査報告会・シンポジウム・現地見学会等)を開催 回数:8回、 受講者・参加者数:287人 「鈴鹿関」企画展を開催(平成27年10月10日～平成28年3月6日) 観覧者数 2,393人 シンポジウムパンフレット及び記録誌を作成 シンポジウムパンフレット 300部 シンポジウム記録誌 300部 			
④事業の計画・実績	事業費	計画額	予算額	決算額	総人件費 ①	2,275	平均給与額×③
		1,900	1,850	1,457	一般職員人件費 ②	2,275	
		国庫支出金 460	728	728	所要人員 ③	0.30	
		県支出金 240	170	170	臨時職員人件費 ④	0	
		地方債	0		受益者負担額 ⑤		
		その他	0		受益者負担率	0.0%	⑤ / ⑥
		一般財源	1,200	952	559		
		再	翌年度への繰越額	0	0		
		掲	前年度からの繰越額	0	0		
		総人件費		①	2,275		
総コスト		⑥	3,732				

⑤事業の評価	【事業の成果】	総合判定
	<ul style="list-style-type: none"> 平成17年度～平成27年度に実施した鈴鹿関跡範囲確認調査の成果をまとめた調査報告書『鈴鹿関跡』を刊行した。 歴史博物館と共催で、「鈴鹿関」に関する企画展を開催し、その内容をweb図録として公開することで鈴鹿関について全国に情報発信した。 これまでの範囲確認調査の成果を基に、シンポジウム「鈴鹿関～明らかになった「かたち」～」を開催した。また、このシンポジウム記録誌を作成することで鈴鹿関について全国に情報発信した。 	<p>B</p> <p>まずは進んだ</p>

⑤事業の評価	【反省点・課題】
	<ul style="list-style-type: none"> これまでの範囲確認調査の成果を基に、国史跡指定の申出(意見具申)に必要な史跡指定範囲の決定を行う必要がある。 地元住民や地権者をはじめ市民に鈴鹿関跡の国史跡指定に対する理解をなお一層深めてもらう必要がある。

⑤事業の評価	【改善の方向性】
	<ul style="list-style-type: none"> 史跡指定申出範囲については、想定範囲を文化庁及び県教委と協議した後、地権者と協議し史跡指定に係る承諾を得る。 鈴鹿関をはじめとする律令三関についてのシンポジウムを開催する。また、シンポジウムに合わせて、地元まちづくり協議会と協働で鈴鹿関跡の見学会を開催する。

事業目的の妥当性: 適切	有効性: 適切	最終評価確認者: まちなみ文化財室長 山口 昌直
--------------	---------	--------------------------